

2

受診時のポイント

(休日や夜間の急病時には、小児初期救急医療センターや地域の救急医療システムを利用できます。P-1参照)

1) できるだけかかりつけ医療機関の診療時間内に受診しましょう。

2) 診察室でたずねられることをあらかじめ整理しておきましょう。

気になる症状はどんなことですか？

その症状はいつからありますか？(何時頃から、1日何回くらいなど具体的に)

今までに大きな病気にかかったことがありますか？

薬や食べ物にアレルギーがありますか？

家族にも同じような症状がありませんか？



3) こどもの症状や様子がわかる人が一緒に行きましょう。

4) 診察を受けるときに持って行くものをチェックしましょう。

母子健康手帳、保険証、診察券

子供の状態がわかるもの(例 体温・症状を書いたメモ(P-6参照)、便・便の写真)

飲んでいる薬や薬の名前がわかるもの(お薬手帳など)

ミルク・飲み物、ほ乳ビン、着替え、タオル、替えオムツ、ティッシュペーパー、

ビニール袋(汚物入れ)、待ち時間のためのおもちゃや絵本 など

3

救急車の利用のしかた



こんなときは救急車を利用してください

意識がない

けいれんが止まらない

息づかいが少なく、呼吸が困難になっている

激痛(頭痛・腹痛・胸痛)がある

出血が激しく止まらない

救急車の呼び方

「119番」に電話すると...

消防署から次のようなことを聞かれます。落ち着いてはっきりと、簡潔に答えてください(このガイドブックの最後のページに問答欄があります。あらかじめ記入しておくといでしょう)。

火事ですか？ 救急ですか？
 どうしましたか？
 住所、名前、年齢は？
 電話番号は？
 目標となるものはありますか？



救急です。
 子供が頭を打って意識がありません。
 歳です。
 - 歳です。
 です(携帯電話も可)
 近くに 学校があります。

応急処置(人工呼吸、心臓マッサージ等)などを指示されたら、その指示に従ってください(P-27参照)。携帯電話の場合は、どこへ行けばいいのかをはっきりと伝えてください。目標となる建物や、高速道路の場合は、上り車線か下り車線かを伝えてください。